

コンサルティング事例 ～ 暗中模索から解決へ～

財団法人 大阪科学技術センター
ATAC 鈴木 正直

余程困られたのでしょうか。ご相談には真剣さがあふれていました。それは輸入した機械についてのトラブルでした。機械本体は輸入したのですが電気・制御関係は日本の規格に合わせて国内で製造したという経緯のあるものでした。本体を作った外国のメーカーとも何度か接触し交渉したが一向に埒が明かず、ホトホト困り果てての挙句の相談でした。

その機械は素材の薄板ロールを連続的に矯正加工するもので、加工がロールの最終域に近付くと、そのロールの変形に追従できなくなりストップするのがこのトラブルの実態でした。

お困りのご様子から、なんとしても解決にご協力を…とお引き受けしましたが、全然タッチしたことのない設備でもあり、高度なコンピュータ制御のついたハイテク機にもかかわらず、本体と制御部の製造が国内外に分かれた経緯もあり、まさに暗中模索からの出発でした。

先ず見せて貰ったのが国内で作成した計画書と先方の仕様書など添付書類や図面です。双方の矛盾点のないことを確かめてから図面を見て詳細な検討を重ねました。設計強度の計算も繰り返し実施し、先方の設計上の考慮がどの様に払われていたのかを推定しながらチェックし、そのメーカーとも連絡を再三取って疑問点を次々クリアして設計上の機械能力が十分計画に見合うことを確かめました。先方に何度か連絡を取ったことで国内では経験の難しい先進国の設計技術の実態とその検討方法も良く理解できたのはこの時の大きな副産物でした。

次に、材質をはじめ鋳造や溶接から加工精度、表面処理に至るまで入念に検討し、製造上の問題点も無いことを確認しました。さらに、国内で実施した電気・制御関連も設計からその部品の選択まで洗いざらい調べました。

この様にして一応ハードには欠陥がないことが判明しましたので、実際稼働させるソフトの機能上の不都合を探すことにしました。類似機械の実情も綿密に調べ比較検討しました。その結果、最終的に「付属しているソフトの幾つかのプログラムの同期が安定していない」ことが判明し、ようやくのことで解決へと漕ぎ着けることができました。

こうした格闘にも似た努力を重ね、矯正ロールが正常に稼働できたときは本当に苦勞の甲斐があったと感じたものです。

この例のように、設備の製造分担が行われると、ユーザー自らが問題解決にあたらなければならないとなり、専門外の問題に暗中模索、立ち往生となることも起こりがちです。このような時にこそ私たちの経験が生きます。かつての成功体験が暗中模索に挑む勇気を与え、川砂利の中から宝石を拾い出す細やかな分析眼を生みます。

満足に稼働する所まで到達するのに沢山の方々の協力と相当の月日がかかりましたが、トラブルが解決しクライアントさんが感謝の気持ちの溢れた顔でお礼を言われたのが今もって忘れられません。その時「企業への貢献が出来た」ことが十分に実感できました。